

令和4年度青森県水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本県の令和3年の水田面積は、7万9,200ヘクタールで、このうち約5割に当たる3万4,200ヘクタールで主食用米が作付けされている。

このほか、飼料用米や備蓄米、加工用米などの非主食用米が約1万6,000ヘクタール、次いで飼料作物が約4,900ヘクタール、大豆が約4,400ヘクタール、野菜は約3,800ヘクタールとなっている。

令和3年度は、米価下落リスクに備え、飼料用米の作付が大幅に増加した一方で、他の転換作物は概ね横ばいであったことから、飼料用米以外で定着性の高い品目への誘導のほか、水田活用の直接支払交付金の見直しを踏まえるとともに、生産性の向上を図るため、ブロックローテーション体系の再構築が必要となっている。

また、主食用米は、「青天の霹靂」や「まっしぐら」のほか、家庭用需要として期待できる令和5年産デビューの新品種「はれわたり」を含めた品種構成の見直しと、良食味の品種特性を発揮できる生産体制の整備が必要である。

さらに、労働力不足対策として、スマート農業技術等の導入とそれを可能とする基盤整備に取り組み、省力・低コスト化を進める必要がある。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

消費者ニーズの変化や経済のグローバル化の進展などの環境変化を見据えながら、本県の夏季冷涼な気象条件等を生かした収益性の高い野菜への転換や、ブロックローテーションによる大豆・麦の生産性の向上を図る。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

国内需要が高い子実用トウモロコシの作付拡大のほか、新たな販路として期待される輸出を用途とする新市場開拓用米や加工用米等の非主食用米の作付けを推進する。

また、転作作物の定着が見込まれる農地では、国の水田農業高収益化推進助成（高収益作物定着促進支援・高収益作物畑地化支援）を活用し、畑地化への取組を支援していく。

特に、高収益作物畑地化支援では、高収益作物による畑地化に対して、令和5年度までの増額単価を周知しながら、関係機関が連携して畑地化を推進する。

なお、畑地化を進めるにあたり、令和3年度の点検結果を踏まえ農地の効率的な利用を妨げることはないよう、産地の合意形成を促す。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

デジタル技術の活用により「青天の霹靂」や「まっしぐら」等の良食味・安定生産を図るとともに、県産米新品種「はれわたり」の令和5年産デビューに向けた生産体制を整備し、作付面積は維持する。

(2) 備蓄米

備蓄米は、作付前に米価が確定し、生産者の経営判断に有利なことから、引き続き、令和4年産まで維持されている県優先枠を活用していく。

(3) 非主食用米

水田活用の直接支払交付金を最大限に活用しながら、飼料用米や新市場開拓用米、加工用米等の非主食用米の作付けを推進する。

ア 飼料用米

令和2年、3年産の複数年契約については継続的に支援を行うとともに、令和3年産で大幅に面積拡大した飼料用米については、令和4年産に播種する多収品種の種子が不足したことから、令和4年産は主食用品種による多収生産の推進のほか、令和5年産の種子確保を確実にいき、取組を維持する。

イ 米粉用米

米粉用米は、輸入穀物価格の高止まりの影響を念頭に、複数年契約を進め安定供給と現在の取組を維持しながら地域内需要の拡大を図る。

ウ 新市場開拓用米

新市場開拓用米は、主食用米よりも取引価格が低いものの、国内市場の縮小が進む中、新たな販路として有望であることから、省力・低コスト技術を導入しながら取組の拡大を図る。

エ WCS用稲

WCS用稲は、畜産農家と一定の結びつきがあることから、現在の作付面積を維持しながら品質向上を図るとともに、直播栽培等による低コスト生産に努める。

オ 加工用米

加工用米は、実需者への安定供給を目指し、取組の拡大を図る。

(4) 大豆、麦、飼料作物

ア 大豆・麦

大豆・麦とも、水田活用の直接支払交付金の見直しを踏まえ、省力・低コスト技術の導入と、高品質安定生産対策を徹底するとともに、持続的に作付拡大が行われていくよう、ブロックローテーション体系を再構築し、生産性の向上により、取組の拡大を図る。

イ 飼料作物

国内需要の高い子実用トウモロコシの作付拡大を図るとともに、水田活用の直接支払交付金の見直しを踏まえ、飼料作物が定着した水田は畑地化を進める。

また、牧草については、適正な播種量や栽培管理によって更新を行い、生産性の向上を図る。

(5) そば、なたね

そば、なたねは地域振興作物として、面積の維持に努めながら田畑輪換や排水対策などの基本技術の徹底による高品質・安定生産と団地化による作業の効率化を図る。

(6) 地力増進作物

生産性向上のため、緑肥作物の積極的な導入を進める。

(7) 高収益作物

主食用米から野菜への転換に向けて、基盤整備ほ場の活用を促進するとともに、冷凍野菜の原料供給を念頭に置いた産地づくりを進め、取組の拡大を図る。

また、基幹品目であるながいも、にんにくについて、産地力の強化を図るため、優良種苗供給体制の強化や省力技術の実証開発に取り組む。

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位：ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和5年度の作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	34,200	0	34,169	0	36,000	0
備蓄米	6,360	0	5,800	0	5,000	0
飼料用米	7,701	0	7,700	0	6,550	0
米粉用米	16	0	20	0	5	0
新市場開拓用米	283	0	300	0	400	0
WCS用稲	660	0	690	0	700	0
加工用米	853	0	1,000	0	1,100	0
麦	578	0	540	0	600	0
大豆	4,414	23	4,800	23	4,500	27
飼料作物	4,883	0	4,900	0	4,760	0
・子実用とうもろこし	15	0	30	0	14	0
そば	1,227	24	1,230	16	1,220	22
なたね	10	0	15	0	14	0
地力増進作物	542	0	600	0	554	0
高収益作物	4,698	0	4,856	0	5,132	0
・野菜	3,844	0	4,000	0	4,300	0
・花き・花木	58	0	60	0	60	0
・果樹	796	0	796	0	772	0
・その他の高収益作物	0	0	0	0	0	0
その他	8,760	0	8,480	0	8,660	0
畑地化	15	0	100	0	5	0

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	飼料用米 （基幹作）	飼料用米の多収品種による多肥栽培への複数年契約取組助成（R2年度からの継続分）	取組面積	（令和3年度） 3,600ha	（令和4年度）3,600ha
			単収	（令和3年度） 666kg/10a	（令和4年度）678kg/10a
2	飼料用米 （基幹作）	飼料用米の多収品種による多肥栽培への複数年契約取組助成（R3年度からの継続分）	取組面積	（令和3年度）2,600ha	（令和5年度）2,600ha
			単収	（令和3年度） 666kg/10a	（令和5年度）678kg/10a
3	新市場開拓用米 （基幹作）	新市場開拓用米の生産性向上メニュー取組助成	生産性向上取組面積	（令和3年度） 283ha	（令和5年度） 400ha
4	新市場開拓用米 （基幹作）	新市場開拓用米の省力技術取組助成	単年度新技術取組拡大面積	（令和3年度） 69ha	（令和5年度） 80ha
			年間削減労働時間	（令和3年度） 1.2時間/10a	（令和5年度） 1.2時間/10a
5	にんにく、ごぼう、ながいも、だいこん、にんじん、ねぎ、えだまめ、かぼちゃ、キャベツ、ばれいしょ、アスパラガス、ブロッコリー、とうもろこし、こかぶ、たまねぎ（基幹作）（契約栽培への上乘せ助成はアスパラガスを除く）	高収益野菜作付拡大助成	水田作で新規に作付した8a以上の単年度拡大面積	（令和3年度） 191ha	（令和5年度） 150ha
			上記のうち、契約栽培に取り組んだ面積	（令和3年度） 62ha	（令和5年度） 50ha
6	飼料用米 米粉用米 （複数年契約） （基幹作）	飼料用米、米粉用米複数年契約加算	（飼料用米） 作付面積	（令和3年度） 7,701ha	（令和5年度） 6,550ha
			複数年契約取組面積	（令和3年度） 7,200ha	（令和5年度） 5,000ha
			（米粉用米） 作付面積	（令和3年度） 16ha	（令和5年度） 5ha
			複数年契約取組面積	（令和3年度） 16ha	（令和5年度） 4ha
7	そば、なたね （基幹作）	そば・なたね振興助成	そば取組面積	（令和3年度） 1,218ha	（令和5年度） 1,220ha
			なたね取組面積	（令和3年度） 10ha	（令和5年度） 14ha
8	新市場開拓用米 （基幹作）	新市場開拓用米振興助成	作付面積	（令和3年度） 283ha	（令和5年度） 400ha
9	新市場開拓用米 （基幹作）	新市場開拓用米複数年契約加算	作付面積	（令和3年度） 109ha	（令和5年度） 50ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名： 青森県

整理番号	用途 ※1	作期等 ※2	単価 (円/10a)	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	飼料用米の多収品種による多肥栽培への複数年契約取組助成（R2年度からの継続分）	1	8,100	飼料用米	多肥栽培、生産性向上、複数年契約（R2から）
2	飼料用米の多収品種による多肥栽培への複数年契約取組助成（R3年度からの継続分）	1	8,100	飼料用米	多肥栽培、生産性向上、複数年契約（R3から）
3	新市場開拓用米の生産性向上メニュー取組助成	1	9,000	新市場開拓用米	生産性向上
4	新市場開拓用米の省力技術取組助成	1	21,600	新市場開拓用米	省力技術の導入
5	高収益野菜作付拡大助成	1	45,000	野菜（14品目）	作付拡大
5	高収益作物作付拡大加算（契約栽培加算）	1	27,000	野菜（14品目）	契約栽培
6	飼料用米、米粉用米複数年契約加算	1	6,000	飼料用米	複数年契約（継続分）
				米粉用米	
7	そば・なたね振興助成	1	20,000	そば	生産振興
				なたね	
8	新市場開拓用米振興助成	1	20,000	新市場開拓用米	生産振興
9	新市場開拓用米複数年契約加算	1	10,000	新市場開拓用米	契約栽培

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする用途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は用途の名称に「〇〇〇（二毛作）」、耕畜連携の場合は用途の名称に「〇〇〇（耕畜連携）」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができます。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、用途の名称に「〇〇〇（耕畜連携・二毛作）」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする用途は「1」、二毛作を対象とする用途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする用途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする用途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細（個票）の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細（個票）の具体的な要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。